



## 会報 2024 年 6 月号

日本ニュージーランド協会 (関西) 創立 1970 年 11 月 11 日

New Zealand Society of Japan, Kansai

The hydrangea with drops gathered The morning sunshine

(C.kagano)

来年 4 月から半年間、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催されます。マスコミなどからはマイナスの情報が多く流れていますが、「百聞は一見に如かず」の気持ちで訪れるのがよいのではないのでしょうか。1970 年の大阪万博でコンパニオン、建設現場・レストランでアルバイトをされた会員もおられます。ニュージーランド館のアイスクリームは美味しいと評判でした。当協会も NZ 館で会員募集をされたと聞いております。2005 年の愛知県の「愛・地球博」の NZ ナショナル・ディにはマオリの踊りが披露され人気を博しました。残念ですが来年の万博にニュージーランドは出展しませんが、多くのキーウィの皆さんが来日されるようですから会場や大阪・京都・神戸などで交流の機会もあると思います。



(松沼清司)

Clive River, Clive

Clive は北島の Napier と Hastings の中間に位置する海沿いの小さな町です。

【事務局】日本ニュージーランド協会 (関西)

〒558-0004 大阪市住吉区长居東 2-17-28, 407 (石井気付)

電話・Fax:06-6607-2112

<http://nzsocietykansai.com> E-mail:[nzsjk@yahoo.co.jp](mailto:nzsjk@yahoo.co.jp)

---

## ■ 第 291 回例会（NZ 文化講演会）

と き: 7月6日（土）13時00分～15時45分

ところ: 服部ビル3階 都島区善源町1-5-49

副会長の服部さんの事務所をご好意で提供いただきます。

テーマ1 「ニュージーランドのSDGs的生活文化」松沼清司氏（当協会副会長）

テーマ2 「ニュージーランドの食文化、生活習慣と良い旅の紹介」堀江真樹氏（昨年6月ご入会）

参加費: 500円

定 員: 24名

締 切: 6月22日（土）

\* 詳細: 同封の「ニュージーランド文化講演会」のご案内をご参照ください。

## ■ 臨時例会「大阪・関西万博の見どころについて」

と き: 7月19日（金）13時30分～15時10分

ところ: 中央電気倶楽部5階大ホール 北区堂島浜2-1-25、Tel: 06-6345-6351

講 師: 樫真夏氏（大阪・関西万博協会理事・副事務総長）

参加費: 無料

\* 主催者の中央電気倶楽部から12席をご提供いただいております。

■ 9月以降の例会等は同封の「2024年度例会予定のお知らせ」をご参照ください。

## ■ 全国ニュージーランド協会連合会（当協会は会員）からのご案内

### 1. NZツアーについて

上記連合会主催で9月10日～18日の9日間です。参加費は49万円です。お問い合わせは連合会へお願いします。ご参加される場合は、当協会にもお知らせください。

### 2. 2024年度臨時総会・懇親会について

と き: 10月24日（木）

ところ: 岐阜県高山市・高山グリーンホテル 会員の皆さんもお気軽に参加できます。

懇親会費: 1万円 交通・宿泊は個人手配です。

締切: 7月31日（水）

申込み: cc@righttec.com

## ■ 2024年度会員総会・懇親会

5月11日（土）に開催いたしました。

資料6に誤りがありましたのでお詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

詳細は同封資料をお読みください。

## ■ 新型コロナ明けのニュージーランドへ

今回の旅行の主な目的は2つ。コロナで暫く行けなかったニュージーランドに住む友人たちを久し振りに訪ねること。そして、2023年2月にネイピア (Napier) を中心とするホークスベイ地方 (Hawke's Bay District) を襲った大型サイクロン・ガブリエル (Cyclone Gabriel) による被害の爪痕が1年経ってどう復旧しているのかを確認することだった。

日本を発つ前日の2月5日は、関東地方が大雪で交通機関の多くが麻痺していた。明日は無事に伊丹空港から成田空港に飛び立てるのか？ 天気予報を見ながら心配のし通しで終日過ごしていた。あとは晴れ男である自分の運を信じて、天に任せるしかない。2月6日、出発当日。伊丹空港に着くと、成田空港行きの飛行機は無事に飛ぶというので、まずは一安心。国際線チェックイン・カウンターで預けた大きな荷物はそのままオークランド空港 (Auckland Airport) まで運んでくれるというので、あとは軽いリュック1つの身軽な移動となった。その時点で、隣りの国内線カウンターでは羽田空港行きが全便欠航になっていたの、なんて運が良いのだろうと改めて思うのだった。

成田空港を夕方飛び立ったニュージーランド航空 NZ90 便が駐機場を離れ動き出すと、毎回観るのを楽しみにしているニュージーランド航空独自のアイデアを凝らした機内安全ビデオが流れた。その後は目の前のモニターで、映画を鑑賞し続けるのもいつものことだ。

暫くして夕食の機内食が配られ出し、紙袋に入ったカトラリー (Cutlery= ナイフ・フォーク・スプーン) のセットを出して驚いた。それまでプラスチック製だった物が木製に変わっていたからだ。「さすが環境保護意識が高いニュージーランド！」と感心した。石油製品を極

力使用しないというSDGsの考えが、こんなところにまで浸透しているからだろう。意識をしてみると、料理が入っている皿も、ホットコーヒーを入れてくれたカップも、カップの蓋も、イヤホンが入っていた袋も、全てが紙製品だった。



次の日の朝になって朝食の機内食を済ませた後、暫くしてオークランド空港に到着した。大きな荷物をガラガラ引いて到着ロビーを出たすぐ右隣にある搭乗手続きのエリアで国内線の出発手続きを済ませて、また身軽なリュック1つに。国際線と国内線の建物は歩いて10分ほど離れているので無料バスが循環しているが、双方の建物を結んで歩道に描かれた緑のラインに沿って毎回歩くことにしている。

小型機で1時間の北島東海岸に位置するネイピアの空港に飛び、予約していたレンタカーでまずは勝手知ったる街の中心部へと向かった。もう25年以上も前になるが、このエリアで2年間家族と共に暮らし、その後も何度となく来ているので、迷わずどこへでも行ける、私にとっては第二の故郷と言える街だ。今回の旅は、同じ街で数泊ずつ過ごしながら慣れ親しんだルートを通り友人たちを訪ねて回るの、地図の必要が無い。

ネイピアは美しいアールデコの街並みがあるまま残っている街として世界的に有名で、毎年2月に開催される「アールデコ・ウィークエンド (Art Deco Weekend)」の1週間は、地元の

---

住民だけでなく多くの観光客が 1930 年代のファッションで着飾り街に繰り出す。国内外からクラシックカーも集結して来るので、街全体があたかもその時代にタイムスリップしたかのようになるのだ。



息子と娘が嘗てホームステイでお世話になって以来、30 年来の付き合いを続けているご夫婦が 2 年前に新しく出来た高齢者住宅 (Retirement House) に引っ越したと聞いていたので、次の日の午前中に訪ねて行くことにしていた。笑顔とハグで迎え入れてくれた住宅は、いわゆる二戸一で、広い敷地内にゆったりと間隔を空けて建っていた。室内は広い LDK にバス・トイレ・洗面台の水回りスペースとベッドルームが 2 つ。建物裏にはちょっとした野菜やハーブを育てているガーデンスペースも付いていた。



敷地内にある集会場では数々のイベントが有るそうだが、毎週金曜日には一人 10\$ (約 900 円) で自由参加のバーベキュー (BBQ) が行わ

れているという。医療のバックアップも施設内に完備し、イザという時には首から下げたペンダント状の物を引っ張れば救急車に直接連絡が行くと教えてくれた。日本の老人ホームと比較して、羨ましいかぎりである。

お昼は、ネイピアに住む私と同じ歳の日本人女性にミッション・ワイナリー (Mission Estate Winery) の予約を頼んでいた。ミッションは名前の通り元々教会で、1851 年にニュージーランドで初めて商業的なワイン作りを始めたワイナリーとしても知られている。葡萄畑に囲まれた高台の上に建つ建物内にレストランが有り、今は子供が独立し一人暮らしになった彼女と妻と私の 3 人は、外の葡萄棚下のテーブルでミッションのグラスワインと共に料理と会話を楽しむ、優雅なランチタイムを過ごした。



一年前にこの地を襲った大型サイクロンによって、いくつものワイナリーは葡萄の樹がなぎ倒された上に水に浸り、川の氾濫で何か所もの橋が破壊され、変電所がやられて一週間停電したと聞いていた。街はずれのゴルフ場やチョコレート工場は、つい最近になってやっと再開したと、彼女からの最新情報も聞くことが出来た。今回の旅行がサイクロン被害からちょうど丸一年に当たったため、当時の被害映像がテレビのニュースで幾度となく流れていた。

ネイピアで 3 泊過ごす間に、最近再開したと聞いたゴルフ場やチョコレート工場などを

外から確認したり、破壊されたという橋を渡ってみたり、嘗て我が家だったホビー・ファーム (Hobby Farm= 趣味の牧場) の家や、娘が通っていた高校 (Tamatea High School)、街外れに在るタラデル (Taradale) の商店街やポリテク (Polytechnic= ニュージーランドの国立専門学校) を通って、隣り街のヘイスティングス (Hastings) や小さいおしゃれな町ハブロック・ノース (Havelock North) へも回ってみたが、私の目にはもうサイクロンの被害らしきところはどこにも見当たらない。以前と全く変わらない景色が広がっていたので、復旧の速さに驚かされた。しいて言うなら、ワイナリーの葡萄が若い木に変わったように思えたこと位だろうか。

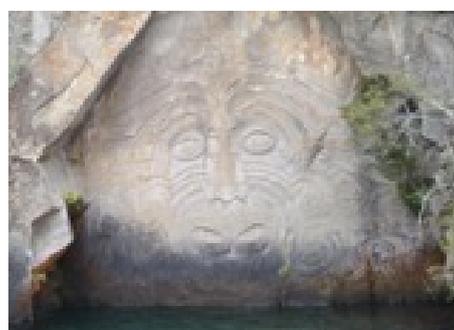
その他、ニュージーランドで一番大きな養蜂場アラタキ・ハニー (Arataki Honey) 本社のショップに寄って、マヌカハニー (Manuka Honey) 等の買い物をしたり、ネイピアとヘイスティングスの境に位置するホヘパ (Hohepa) の敷地内にあるショップで食料を仕入れたりした。ホヘパとはダウン症の人たちの技術訓練施設で、広い敷地内に個別の住まいと様々な作業施設の建物が点在しているところだ。施設内で育ての親と暮らし、木工や織物、染色、蜜蝋の蝋燭作り、チーズ、野菜、等々、その人に適した作業をすることで、皆んな生き生きと暮らしている。熟練してきたら週 2 日ほど、街の店に働きに出たりもしているそうだ。敷地内の入口近くに彼等が作った品々を売るショップが有り、チーズ・コーナーには 2023 年度ニュージーランドのチーズ部門で金賞を獲得したボードが掲げてあった。

ネイピアから山越えの国道 5 号線 (State Highway 5) 通称タウポロード (Taupo Road) を通って、北島の中央に位置するニュージーランド最大のタウポ湖 (Lake Taupo) に向かっ



た。タウポロードもサイクロンによる崖崩れが数か所あった筈だが、全くその痕跡に気付くこと無く 2 時間、時速 100km の快適なドライブが楽しめた。タウポでは、今回の旅行で唯一観光と言える、先住民マオリの岩壁彫刻 (Maori Rock Carvings) を観に行くクルーズ船に乗る目的が有った。従来からどの辺りに岸壁彫刻が有るのかは知っていたが、船かカヌーに乗って行かなければ見ることが出来ないところなので、これまでついつい行きそびれていたのだ。

クルーズ船が湖岸に沿って 20 分以上進んだ先で、カヌーやヨットが集まっていて、湖面から垂直に切り立った岩壁にクルーズ船が近づくと、目の壁面に掘られたマオリ独特の絵柄彫刻が何かを語り掛けるような大迫力で迫って来た。文字を持たないマオリはこの絵柄で何を伝えているのか私に知る由も無いが、湖底から切り立つ岩壁にこの大きな彫刻をいったいどうやって刻んで行ったのか、驚くばかりだ。



湖畔から5号線を北に7kmほど走ると、道の左右に何本もの太い銀色のパイプが伸びている。1963年ニュージーランドで最初に作られたワイラケイ地熱発電所 (Wairakei Geothermal Power Plants) だ。ニュージーランドの総発電量のうち80%以上が再生可能エネルギーによるもので(2022年)、その内の60%近くは水力だが、日本と同じ火山が多いこの国では地熱で20%を賄っている。2025年までに自然エネルギーの割合90%の目標を掲げているニュージーランドは、先進国の中でも原子力発電所を全く持たない数少ない国の一つだ。



5号線を更に北上して、次の目的地であるロトルア (Rotorua) に向かった。街の中心部に向かう手前で右折して、街に隣接したレッドウッドの森 (The Redwoods Forest) の1時間コースを散策する。巨大なレッドウッドの森の間を縫って続く緩やかなアップダウンの道を通って、ちょうど1時間でスタート地点に戻ってくるコースだ。レッドウッドの巨木の下は背の高いシダで被われている。枝が真っ黒なブラックツリーフェーン (Black Tree Fern マオリ名=Mamaku) と、枝や葉の裏が白いシルバーフェーン (Silver Fern マオリ名=Panga) が有り、シルバーフェーンはニュージーランドのラグビーチーム「オールブラックス (All Blacks)」のマークをはじめ、様々なデザインに使用されるニュージーランドを代表する植物の一つだ。

ニュージーランドには温泉地域が何か所も有



るが、その中でも有名なのがロトルアだ。しかし、全国どこでも個室でない限り水着が必要だ。その中で唯一、完全に日本式の裸でしか入れない掛流しの露天岩風呂が有る宿がロトルアの街中に存在する。日本人ご夫婦が、敷地内から源泉が湧いている宿を買取り、温泉プールだった所を露天岩風呂に作り直したからだ。私がネイピアで暮らしているときに知人からそのご夫婦を紹介されて以来、とても親密な付き合いをずっと続けている。私たち家族が日本に戻って10年ほどしてから私と妻が再度ニュージーランドに渡ったとき、その宿の客室棟とは別で敷地内に建つオーナーハウスに同居で住むようご夫婦が誘ってくれて、1年間一緒に暮らしたくらい仲だ。数年前、その夫婦は宿を香港チャイニーズのご夫婦に売ったが、そのとき香港チャイニーズご夫婦に私たちを特別な関係と紹介してくれたので、今度は買主ご夫婦とも親しい間柄になっている。



ロトルアで3泊する間に、温泉の湯気があちこちから立ち昇る街中の大きなクイラウ公園 (Kuirau Park) やロトルア湖畔、大量の地下水がこんこんと湧き出しているハムラナスプリン

グス (Hamurana Springs)、街中のショッピングモールなど、懐かしい場所を回って過ごした。

ロトルアから 33 号線を北上し、キウィフルーツ (Kiwifruits) の最大生産地テ・プケ (Te Puke) を通過して、リゾート観光地のマウント・マウンガヌイ (Mount Maunganui) に立ち寄った。有名なアイスクリーム屋でホーキーポーキーアイスクリーム (Hokey Pokey Ice Cream) を買って海辺を歩きながら食べた。その後タウランガ (Tauranga) に向かい、ランチタイムに街中のカフェに入ると、なんと、カトラリーが機内食の時と同じ木製のセットが出て来た。



タウランガでの宿は、街から 2 号線を 20km ほど先に進んだ半島の先端にある、妻お気に入りのこじんまりした町オモコロア (Omokoroa) のホリデイパーク (Omokoroa Kiwi Holiday Park) と常に決めている。敷地内にはキャンピングカーや水回りが共同の部屋など様々なタイプの宿泊施設が有るが、その中のモータルタイプ (Motel Type) は LDK にベッドルームとシャワー・トイレ・洗面所の全てが備わった一戸建てだ。

タウランガに住む知人ご夫婦は、ご主人の仕事が終わった後でホリデイパークまで訪ねて来てくれた。あいにく妻が風邪気味で寝込んでいたため、LDK 外のテラスの椅子で時間を忘れて長いこと話し込んだ。

半島最先端の高台には海を見晴らす高級住宅が立ち並び、細長いマタカナ島 (Matakana

Island) が防波堤のように横たわり仕切られた内海マタカナ湾 (Matakana Harbour) は、常に波が無く穏やかだ。オモコロアビーチ (Omokoroa Beach) にはいつでも長閑な風景が広がっている。



タウランガ空港でレンタカーを返却して、オークランド行きの搭乗口で飛行機の出発時刻になるのを待つ間にふと見上げると、柱も天井も全体に木が使われているのに気が付いた。こんなところにもニュージーランドの自然思考の姿が現れているような気がしたのだった。



オークランドでは、西オークランドの小さな町ヘレンズビル (Helensville) の一軒家を定宿にしている。旅行の最後は日本に帰る前の数日を少し長めにゆっくり過ごすことにしている。道を挟んだ向かいに住むオーナー夫婦は日本人の奥さんとキウィ (ニュージーランド人) のご主人で、空港まで迎えに来てくれるように約束していた。

到着した日の夕食準備は大変だろうからと、ご夫婦は自宅に招待してくれるのもいつものこ

とだ。オーナーご夫婦とは何年もの知り合いなので、友人関係同様の付き合いになっている。奥さんの里帰りで日本に戻った間に関西へ旅行で来た時には、ご夫婦でわざわざ我が家に寄ってくれたこともあった。



一軒家を貸すオーナーの趣旨が、ニュージーランドの我が家で暮らしているように過ごして欲しいということなので、掃除、洗濯、ゴミ出しなどは自分たちでする代わりに、季節ごと広い庭に成る林檎や葡萄、イチジク、梨、マカデミアナッツ、フィジョア (Feijoa) などを自由に採って食べて良いことになっている。

オーナーご夫婦の紹介で知り合った同じヘレンズビルに住む若い日本人の奥さんとオランダ人のご夫婦にオーナーは声を掛け、今回もオーナー宅でランチの集いを開催してくれたので、話がはずみ気が付けば夕方近くになっていたのだ。

普段の買い物は歩いてすぐの大型スーパーマーケットに行っているが、その店内で機内食で出て来た木のカタラリーのセットと同じ物が売られているのを見付けた。紙袋に入ったセット以外にも個々のバラや同じ物の大量の束も有った。カフェやキャンプ、ピクニックなどでの使用が浸透し始めているのかも知れない。

帰国の日の朝は通勤渋滞に巻き込まれないようにまだ暗い内にヘレンズビルを発って、オーナー夫婦の車でオークランド空港まで送って貰い、今回の主目的だった友人知人た

ちと久しぶりに会うこととネイピアを襲ったサイクロン被害の復旧状況確認を無事終えた以外に、この国のSDGsに対する取り組みと意識の高さを再認識する旅にもなった。  
(松沼清司)

## ■ “ミュージアムにニュージーランドがやってくるニュージーランド学会”に参加して

4月20日(土曜日) 13:00~15:30 兵庫県立津ミュージアムにて開催されました。

挨拶に池田久代ニュージーランド学会副会長が立たれました。場違いなところに来たのではないかと不安だったのですが、挨拶の中で、『学会といっても一般的な学者・研究者だけの会ではなく、広くニュージーランドに興味を持つ人の集まりです』という趣旨の話をされたので、少し安心して座っていられました。

講演の構成としてありがたかったのは、最初に概論があり、そのあとに各論1・2・3・4があったことです。ほとんど何も知らない私にとって、下準備をして各論が聞けたように思います。

印象に残ったことを、かいつまんで報告します。最初に、概論として田辺真人氏が「ニュージーランドの風土と文化」について話されました。この方についてはご存じの方も多いかと思いますが、園田学園女子大学名誉教授、兵庫県立津ミュージアムの名誉館長、ニュージーランド学会顧問、等肩書の多い方でありラジオでの放送や、講演会開催で有名な方で、話は面白く聞かせていただきました。後で田辺さんは20年程前に当協会で講演されたことを知りました。

初めにニュージーランド学会と日本ニュージーランド学会の違いについて、話がありました。『当学会が最初に関西で立ち上げ全国で統一するはずであったのが、勝手に先行して別に“日本ニュージーランド学会”が設立されてしまっ

---

たので、日本だけが対象ではないよ、という意味も込めて、“ニュージーランド学会”とし今に至っている』とのことでした。

そして、説明の始まりは、アオテアロア“(マオリの言葉でのニュージーランド)の語源からでした。無人島であったこの島を見つけたのはポリネシア系のマオリ人で長く白い雲のたなびく地という意味だそうで、これは島に高い山があるので雲が発生するからだそうですマオリの人はこのことを知っていたのでしょうか、雲の下に島があると信じ、近付いて行ったようです。

歴史についての説明は

1642年: オランダ人のアベル・タスマンがこの島を発見したが、上陸はしなかった。

1769年: イギリス人のジェームズ・クックがタヒチでの金星の太陽面通過観測の帰り発見し、上陸調査した。

1770年～1830年: イギリスでは、産業革命の結果貧富の差が激しくなり、新天地を求めて、ニュージーランドへ移住が始まった。イギリスの国としても、1776年にアメリカの独立宣言があり新しい植民地を求めている。

1840年: ワイタングイ条約締結される。今までの植民地と違い移住先としての趣旨が強かったので原住民への配慮も幾分されたものであった。(山下の個人的見解: フランスもこの土地を求めていたためイギリスは早く条約を締結させたかったのも一因で配慮したのではないか。)しかしその後入植者とマオリの間で紛争・戦闘が続く。

1860年～: ゴールドラッシュがあり一攫千金を求めての人も集まった。

1890年代: 西欧風理想主義に基づく法の整備が進む。これは、入植者の多くが本国では弱者であったことからの弱者救済や先住民への配慮等から。(後の近藤先生の話に詳細)

1907年: ニュージーランド植民地からニュージ

ーランド自治領に昇格される。

1947年: 完全独立等が説明されました。

各論1では「NZ固有の動・植物と保護区観光」と題して、太谷亜由美ニュージーランド学会会長が講演。多くの保護区の位置と動植物が、地図と写真とにより詳しく説明されました。

各論2では「先住マオリの文化」と題して、土井冬樹神戸大学国際文化学協力研究員が講演特にハカについての話が印象に残りました。オールブラックスの試合前のハカと観光地の「ハカ」について漠然と知っていただけでしたが、この時いろいろな「ハカ」についての紹介がありました。女性の「ハカ」についても初めて知りました。帰って調べてみたのですが、まだよくわかりません。整理しますので間違えていましたら教えてください。

ハカ: 広い範囲の総称でマオリが戦いの前や、儀式に行う伝統的舞踏。部族の強さや誇りを示す。

ハカ「カ・マテ」: 1820年代に作られ戦いの前に士気を鼓舞する舞踏。1905年からオールブラックスが試合前に行う。

カパハカ: マオリの伝統舞踊の保護・復興のために取り組んでいる集団舞台芸術。

ワイアタ・ア・リング: 新しい舞踊で手の動きが特徴。フラダンスのようにも思える。

各論3では「世界初のNZ法律制度」と題して近藤真岐早稲大学名誉教授が講演このニュージーランドでは、平和、人権、民主主義、環境保護、のための極めて先進的な、取り組みがなされており、数多くの世界初の法制度が整備されてきたことには、驚きました。ニュージーランドの非核法に関連して、神戸方式(神戸市は神戸港に寄港する外国軍の艦船に核兵器を搭載していないことを証明する「非核証明書」の提出を義務付けている。)について説明されました。結びでの、『日本国憲法の理想を実現している



講演会風景

国がこの世にあるとすれば、ニュージーランドをおいて他にないと思うのです』。という文言が強く心に残っています。

各論4では「ニュージーランドの語学留学事情」と題して小池泰司国立ワイカト大学日本事務所所長が講演多くの資料により、実情に即した解説・案内がありました。

ちなみに会場の「兵庫県立兵庫津ミュージアム」へは、初めて行ったのですが、神戸市営地下鉄海岸線「中央市場前駅」から徒歩5分の位置にあります。兵庫津ミュージアムは、兵庫始まり館と初代県庁館の2館が一体となったものです。兵庫始まり館は、なぜこの地が平安時代末期から港として栄えたかを映像や体験型コンテンツ等により面白く解説しています。初代県庁館は時間の関係で行けなかったのですが復元施設で当時の歴史的空間が体感できるそうです。

(山下誠二)

## ■ 英語耳を養いませんか「Unpacking Japan」を聴きながら

最近はネットサーフィン（ネフサ）という言葉はあまり聞かなくなり、「ググる」等というそうですが、私は毎日1時間から2時間程度、パソコンの前に座ります。NZ協会関係のメールのチェックのほか関係団体のHP、NZなど

の海外事情・日本の社会状況・日常生活情報を得るためYouTube等を検索しています。多くの会員の皆さんは既にご存じと思いますが、先日「Podcast」を知りました。これは、「iPod」と「broadcast」組み合わせの造語らしいです。

その中に大阪本社の「ZenGroup(株)」が発信している「Unpacking Japan」を発見しました。この会社は、越境ECサービスを展開し、日本と海外の橋渡しを主な業務としています。共同代表者4名はウクライナ・ロシア出身で、日本の大学・大学院卒業で19の言語に対応できるそうです。

「Unpacking Japan」では日本各地で様々な活動をしている外国人がゲストで、フランス出身のピーカー・トビアスさん（トビ）がホストを務めインタビューをされておられます。昨年の3月以来、毎週土曜日に配信していて、既に50名以上の方が登場しています。先日、偶然にも20年ほど前に当会の会員だったキャサリン・オコーナーさん（弁護士として東京でご活躍中）を画面上で拝見し驚きました。NZ人としては福島で大震災に遭われた中田ジェーンさん、Tokyo Cheapo(外国人から最も読まれている英語による情報提供会社)の共同創業者のグレッグ・ライさんも登場しています。それぞれ約1時間のインタビューです。

「Unpacking Japan」に登場しているゲスト



ホストのトビアスさん

の英語は聞きやすく英語耳を養うのに適していると感じました。多くの会員の皆さんは今更英語耳を養う必要はないと思いますが、日本で活躍されている外国人の方々の様子を知り、同時に英語耳養成にも有益なこのインタビュー番組を聞かれることは意義あるものではないでしょうか。

※ 本稿作成には ZenGroup の HP 等を参照させていただきました。

(石井久行)

## ■ 自宅で始める国際交流。ホストファミリーを募集します。



ニュージーランドの北島に住む高校生たち(14~17歳)がホームステイ先を探しています。留学は、日本の文化を体験する“国際交流”プロジェクトの一環で、滞在期間は様々ですが、全員、日中は地元の高校に通います。留学予定は2025年。期間も数日の体験から短期(数週間)、中期(数ヶ月)、長期(1年未満)とさまざまです。日本に興味をもち、日本語を学ぶ子どもたちを受け入れてみませんか？

- ① 必ずしも英語は話せなくても大丈夫
- ② 狭くてもひと部屋を提供できて
- ③ 食が提供できれば大丈夫

①「英語が話せないから」という理由で留学生を預かれない、と考える家庭も多いかもしれません。でも、ホームステイの目的は「生活体験」。ゲストに対する誠意、相手の言うことを理解し

ようとするキモチと努力があればいいのです。みぶりや手ぶりをを使ったコミュニケーションやスマホの翻訳アプリの活用もオススメです。

②ゲストルームがないことや家の狭さから、最初は受け入れを尻込みするかもしれません。でも「日本ではどんな暮らしをしているのか」をゲストに体験してもらうのは大切なことです。狭くても明るいあなたの家庭に留学生を招きませんか？

### ③ 異文化に触れるのが大事

一般家庭のありのままの姿を見ることによって、日本人の生活の知恵や考えかたに気づいてもらうのがホームステイの目的です。自国との違いを互いに認めながら「心の繋がりをつくる」のが醍醐味と言えるでしょう。食事アレルギーや宗教的なものを除けば、特別な準備は要りません。ふだんの家族の食事をシェアしてください。参考：国際交流協会『ホストファミリーの手引き』

「わが家は古いから」「年寄りだけだから」と受け入れを躊躇しないで、ありのままの暮らしぶりに触れてもらいませんか？ベテランも受け入れ未経験者も歓迎です。

ホームステイの生徒の受け入れに興味がおありのかたは「expression of interest EOI= 関心表明」で名乗りをあげてください。こちらから折り返し、ご連絡します。

EOI だけでは正式な登録になりませんので、お気軽にお問い合わせください。

email: bothwayeducation@gmail.com



(サカイ・ケイツミカ)

---

## ■ 200年で絶滅した「ジャイアントモア」

岩波書店発行「図書」2023年1月号に作家の川端裕人氏が紹介されておられます。(会報に記事同封)

天王寺動物園には、全国で唯一のキーウィが夜行性動物舎で飼われていますが、いつ姿を表すかはわからないそうです。

## ■ 原稿募集中

NZに関する情報・旅行記などご寄稿をお願いします。次号の締切は9月末です。

## ■ 会員名簿

個人情報保護法などの関係で当協会でもどのような形式で名簿を作成するのかを理事会で検討いたします。ご意見・ご提案は事務局へ。

## ■ HPのリニューアル、会報編集

ご協力いただける皆さんを募集中です。

.....

## ■ 新会員募集

NZに関心あるご友人・知人をお誘い下さい。

## ■ 運営・例会等へのご提案をお待ちしています。

## ■ 年会費のご請求

会員総会時にお支払いいただいた方々もおられますが、3000円の年会費は8月末までにお振込みをお願いします。振込先などは同封しております。

## ■ 長居植物園・紫陽花フェア

50周年記念として桜の木を1本、ハナショウブ園の立て看板後ろ5mのところは昨年植えました。順調に育っていて5年後には見栄えのよい花が咲くそうです。今、周辺にはハナショウブ・睡蓮の花が美しく咲いています。6月30日までの紫陽花フェア(一万株・市内最大級)終了までは休園日なしです。

## ■ 50周年記念マグカップ

在庫が少なくなりましたがご希望の方には郵送・手渡しで配布いたします。電子レンジ専用です。1個1000円、送料800円



例会申込先

電話・Fax:06-6607-2112 E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp